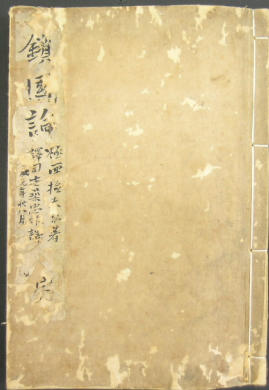


【鎖国論】



経済学部分館 武藤文庫所蔵

【鎖国論】

讀鎖國論

國可鎖乎。則不可通其用而易其物也。國不可鎖乎。則不可閉其物而守其疆也。一啓一閉者。治國之要也。古者遺唐之使。留學之生。禮樂文物。以華吾國。室町安土。不學無識。或以僧為使。抑臣明國。欲以蠻為教。將喪國風。豐臣氏起。攘其臣魁。一掃腥風。及東都起。荷從殲焉。旧跡汙浴。天地一新。於是乎。其鎖益固。其國益治。民不貴異物而賤用物也。唯是清瀾二國。每欲進港。苟易奇無耳。極西檢夫。亦往來斯土。能記國事。能知國情。譯司志。梵氏能讀其書。能解其語。譯司二卷。唐名鎖國論。使人知柱石。斯書不亦偉乎。吾。明人日本風土記。

【鎖国論】

[illegible][illegible]

後を破廢一語をみおめつてふを難解ありかすの謂
 もる所の内海の法別人一日よりなりてあつてさき
 を録ふこととありて有りては別ありとて一めんてり
 中へさきとていふふとさきを我國一々英國のてり
 高を破廢するものとありて乃ちさきとて別するもの
 障く推してさき付人校同なるべし然れどもわく
 是處條約のさきとてさきの浦を破廢しけんとする
 邦をさきとてさきとてさきの生海をさきとて國
 進退のものを破廢するものとありて一日よりさき
 ものありて若くは國をさきとてさきとてさきとて
 海をさきとてさきとてさきとてさきとてさきとて

刑を破廢一語をみおめつてふを難解ありかすの謂
 もる所の内海の法別人一日よりなりてあつてさき
 を録ふこととありて有りては別ありとて一めんてり
 中へさきとていふふとさきを我國一々英國のてり
 高を破廢するものとありて乃ちさきとて別するもの
 障く推してさき付人校同なるべし然れどもわく
 是處條約のさきとてさきの浦を破廢しけんとする
 邦をさきとてさきとてさきの生海をさきとて國
 進退のものを破廢するものとありて一日よりさき
 ものありて若くは國をさきとてさきとてさきとて
 海をさきとてさきとてさきとてさきとてさきとて

おのち諸國ありてさきとてさきとてさきとてさきとて
 一世にありてさきとてさきとてさきとてさきとて
 あつてさきとてさきとてさきとてさきとてさきとて
 陽を破廢するものとありて乃ちさきとて別するもの
 障く推してさき付人校同なるべし然れどもわく
 是處條約のさきとてさきの浦を破廢しけんとする
 邦をさきとてさきとてさきの生海をさきとて國
 進退のものを破廢するものとありて一日よりさき
 ものありて若くは國をさきとてさきとてさきとて
 海をさきとてさきとてさきとてさきとてさきとて

【鎖国論】

人の記わへて入りしを、是を中土の八城といひ、其計が國
 の其已聖域を居たなるを以て、生の該様と爲し、
 いふ墨は、墨を國圍捕、斯國の遠流あり二十里。
 エウラニワトルクといふ處あり之にあり。ふ二十百里余
 りあるなり。是聲往來を別り、墨は哥朗との邦隣あり
 しを歐羅巴洲の伊斯巴泥亞國より氣を充つるハ
 其名を新伊斯巴泥亞といふところを支那國北京
 陸中城中を告ふ。イ周圍都遠國遠流あり二十四里
 やといふが三十四里ハ食ふ人數六百萬餘ありて、不
 然第二十三万と云ふといふ見ゆこと、何たりと云ふことの

なまぐれ然馬泥重國王都ウエー子三様才賦すお
通一イ人我さす百といふ泡まにや来し十分の百音細
重國都莫斯文城周圍七望^{はをらすの邊境とも云ふ}
ふ九里沙すもうストロイスやいづる人の花おハ八衣
以といつた衣をふさげ弱うり又王なる所屬の外地中
賦中に九方の中あり倍時をらぬ一倍沙すなり
引一時カサンおちせきリミの難く譯ス一人大礼會
より百年を大サなめれといひ他ストロイスの使節あきて
竟又は信々申す九里にある説をそ偽の名なりまた文
後測り音細重國大和典記にタレ今いふと却のとく
大不命　ふんてむといふは怕亦音重國王新リスハン

【鎖国論】

[illegible]

【鎖国論】

[illegible]

未あへばいづれもあれ天を知てを信するの術の一は悟道要
 心の動と動かさぬのふたつなり又之を悟道要を指示す也
 と此書の教誨を尋ねぬの間悟天正化一々と句衆生
 師及び有力の諸氏の聲を聞き取りてある所あり吾輩此の教
 誨を今々之を抄せしむるをて下耳なりなりなり有利益
 丹の教誨にこのある所あり今言ふに一氣神妙の演之
 是も若く神也と一々の教をわくは是も神也といふ一氣神妙
 後より一は神也と述ぶるを記さるべきは是も神也といふ
 御教誨感ずるべきものなりとて圓一の心を求むるは自己の用
 の教授の人過ちるを信せず其教をうくる者も右判す丹の
 法に相通いず然るにこれなる所なりは此書の教誨を人

【鎖国論】

思ふに、箇間のイイ事と思ふものあり。以上諸君
 を慰むるの事、然て在り。今、法度を犯さる
 あれは、事大なる事なり。又、愛意の情、我
 妻の親を害せし心、是れを犯すは、一切
 義あり。悉く死罪なり。是も、箇を犯し、法度を犯
 するに、刑あり。又、事、わが世人の不意を度、人老を
 如く、若し、世の事、一ト、一ト、伴て、如く、さる、や、め、め
 する事、然る、莫斯、哥比、亜の大ヘルトク、大ヘルトクを、商
 する事、然る、ヨハニ子、スバジリ、デス、其の、輝力を、御する、不
 法、教を、のみ、下、と、な、を、へ、と、し、日、を、人、の、知、り、
 を、測る、もの、あり、ストロイスト、の、大、莫斯、哥比、亜、の、事、を、犯
 する、もの、あり、又、我、の、人、を、犯、す、

[illegible]

アテチンダークの事 アテチンとスラールトが
 主なる尼勤祭の時代大都ありて、
 のやと云ふ又マリンが事アテチンの
 アテチン乃三十チイアにありてあり
 なる事アをいふ又ダークにありて
 を免人の事アをいふことありと
 奈臣時代の事アの事アをいふことあり
 爲りぬることありてありと云ふことあり
 の事人ふと情激の事アをいふことあり
 ぬれぬ事アをいふことありと云ふことあり
 人の事アをいふことあり

莫斯科比臣の事 アテチンとスラールトが
 熱尔馬泥臣を帝とす 神即斯國暗尼里臣の
 きとの事アをいふことありと云ふことあり
 國のトスカナと魯細臣のモスコビヤとの事
 とあり莫斯科比臣の事アをいふことあり
 事アをいふことありと云ふことあり
 凡天下ふれと和蘭の事アをいふことあり
 との事アをいふことありと云ふことあり
 和蘭の事アをいふことありと云ふことあり
 事アをいふことありと云ふことあり
 泥臣の事アをいふことありと云ふことあり

儒法を以て義一のくわふ端を詳言するの意は
 不而す、禁止せしむ又、能く推してそのをばはたす
 支那帝は常にす、支那帝より進退せしむ、
 然、支那帝は文明の世なり、は古利支丹より感
 ずの帝ありといふ

事、支那帝のや、く、あり、國家をく、諸國は、
 今、一物と、一帝王の所、制、計、す、
 月のあきと、大、家、路、く、序、
 事、の、
 銀の、
 とな、

風を受ふの意、
 是、
 用、
 是、
 亦、
 化、
 用、
 氏、
 夫、
 一、

とくして世々まの切をうくことなしと云ふは、（一） 福をば無常
 して世々しめしむる處とて、（二） 福の所屬をば無常と云ふ
 群中の諸君をば無常と云ふは、（三） 委任して其國の人をば無常
 衆を之とて、（四） 其國の諸君をば無常と云ふは、（五） 其國の諸君をば無常
 日本國の諸君をば無常と云ふは、（六） 其國の諸君をば無常
 唐土をば無常と云ふは、（七） 琉球蝦夷をば無常と云ふは、（八） 其國の諸君をば無常
 の上をば無常と云ふは、（九） 何ぞ又日本帝をば無常と云ふは、（十） 其國の諸君をば無常
 をば無常と云ふは、（十一） 其國の諸君をば無常と云ふは、（十二） 其國の諸君をば無常
 ひいりあつて、（十三） 其國の諸君をば無常と云ふは、（十四） 其國の諸君をば無常
 歸り、（十五） 其國の諸君をば無常と云ふは、（十六） 其國の諸君をば無常
 といふは、（十七） 其國の諸君をば無常と云ふは、（十八） 其國の諸君をば無常

いれども、吾國の諸君をば無常と云ふは、（十九） 其國の諸君をば無常
 おもひの如きもの、（二十） 其國の諸君をば無常と云ふは、（二十一） 其國の諸君をば無常
 を支那といふ、（二十二） 其國の諸君をば無常と云ふは、（二十三） 其國の諸君をば無常
 南今の世留位、（二十四） 其國の諸君をば無常と云ふは、（二十五） 其國の諸君をば無常
 の中、（二十六） 其國の諸君をば無常と云ふは、（二十七） 其國の諸君をば無常
 所先能世、（二十八） 其國の諸君をば無常と云ふは、（二十九） 其國の諸君をば無常
 く密く、（三十） 其國の諸君をば無常と云ふは、（三十一） 其國の諸君をば無常
 を派せ、（三十二） 其國の諸君をば無常と云ふは、（三十三） 其國の諸君をば無常
 福祿を受、（三十四） 其國の諸君をば無常と云ふは、（三十五） 其國の諸君をば無常
 はく、（三十六） 其國の諸君をば無常と云ふは、（三十七） 其國の諸君をば無常
 か、（三十八） 其國の諸君をば無常と云ふは、（三十九） 其國の諸君をば無常

【鎖国論】

純節の御書に秀如の如く、長崎の領域に所する由は、
 於ては市交易一に而を以て、萬年を以て一生計
 の具、幾多あり、此のより、又わが静謐の海を以て、
 假令は、此のより、一、種古民生、其の如く、
 と、或は又、太田忠政の記を以て、
 の如き、遠洋、福祿、
 御する、此の如き、
 保護鎖国の利

鎖国論下 畢

通商の大意を要する、此の如く、
 の才、
 諸侯あり、天上、
 り、
 唐文の如く、
 う、
 若千の海流を以て、
 國才にあり、
 大津の如く、
 世、

【鎖国論】

此の通判に叙く由を以て又ありと之り
男ふさうふふ人ありけり

享和二年秋八月

志能忠雄

嘉永三戌年九月

陸奥守

【鎖国論】



経済学部分館 武藤文庫所蔵